

企画セッション

◆ 特許庁の「第四次産業革命」への対応 ◆

【講演者】 発表順

松岡 徹 特許庁調整課審査基準室 室長補佐
小堺 行彦 特許庁企画調査課 知財動向班 技術動向係長

<司会>

川上 佳 近畿経済産業局 知的財産室長

【内 容】

「IoT」により実社会の様々な情報が取得可能になり、収集された「ビッグデータ」を分析することで新たな価値が生まれ、「AI（人工知能）」がそのデータを元に自ら学習することでこれまで不可能とされていた高度な処理能力を身につける—これらのイノベーションは、産業、さらには社会生活を大きく変革する「第四次産業革命」を引き起こしつつある。この社会変革を我が国の産業競争力拡大の絶好の機会として最大限に活かすために、知的財産制度はますます重要な役割を担うこととなる。本セッションでは、特許庁の「第四次産業革命」への対応の一部を紹介する。

(1) 第四次産業革命に対応した特許審査基準の改訂と各国の状況

IoT関連技術やAI等の新たな技術の台頭に伴い、ソフトウェア関連発明が多くの技術分野で創出されるようになってきた。今般特許庁では、ソフトウェア関連発明に係る特許審査基準について、発明該当性に関する明確化を図るための改訂を行うとともに、IoT関連技術等に関する審査事例を特許審査ハンドブックに追加した。本セッションでは、日米欧の特許審査基準の比較や、特徴の紹介などを含め、改訂した審査基準等の内容について紹介する。

(2) 「第四次産業革命」に関連する特許出願動向調査を実施

特許庁では、市場創出に関する技術分野、国の政策として研究開発を推進すべき技術分野を中心に技術テーマを選定し、特許出願技術動向調査を毎年実施している。特許出願技術動向調査は、特許出願動向を中心に、市場動向、政策動向等を含めた調査を実施しており、今後、我が国が目指すべき研究開発、技術開発等の方向性を提言としてまとめている。本セッションでは、「第四次産業革命」に関連する技術テーマの調査結果の紹介を行う。

企画セッション

◆ 特許庁の「第四次産業革命」への対応 ◆

【略歴】

松岡 徹 (特許庁調整課審査基準室 室長補佐)
2003年4月 特許庁入庁・高分子、電気化学、生命工学分野の審査を担当
2011年10月 経済産業省知的財産政策室 課長補佐
2014年6月 特許庁総務課制度審議室 室長補佐
2016年4月 東京大学大学院メディカル情報生命専攻 客員准教授
2018年4月 現職

小堺 行彦 (特許庁企画調査課 知財動向班 技術動向係長)
2012年4月 特許庁入庁・電子デバイスの審査を担当
2017年10月 現職

川上 佳 (近畿経済産業局 知的財産室長)
2003年4月 特許庁入庁・冷凍装置、自動車、搬送装置等の審査を担当
2013年1月 特許庁総務課システム開発室 室長補佐
2016年1月 特許庁総務課特許情報室 室長補佐
2018年4月 現職

以上